

高瀬 真理子さん

Mariko Takase

実践女子大学短期大学部長

1959年生まれ。実践女子短期大学、同大学を経て、同大学院文学研究科修士修了。2004年、教授。専門は日本近代文学。4月1日公開の映画「蜜のあわれ」（室生犀星原作）では解説を担当



「厳しいけれど温かい」指導が 室生犀星研究への道を拓いた

高校時代の志望は法学部で、希望通りにはいかず実践女子短期大学国文科に入学しましたが、そのため、将来の転部・転科も考えましたが、入学してみると丁寧で面倒見の良い指導で学校の良さに気付くようになりました。大学に編入し、卒業論文を書く時、短大時代にお世話になった板垣弘子先生から「風土の分かる作家を題材に」と助言をいただきました。長崎で生まれ育ち、金沢の金沢二水高校を卒業した私の脳裏に浮かんだのが、徳田秋聲、泉鏡花とともに「金沢の三文豪」と呼ばれた室生犀星です。高校合唱部の部歌には、犀星の詩句が盛り込まれています。

当時、犀星の小説はあまり研究されておらず、大学や大学院でもっと調べてみようと思いましたが、室生犀星学会が設立され、院生ながら研究発表をする機会にも恵まれました。現在、女性文学を教え、学生たちの悩みを聞くこともあります。そうした時に役立つているのが、母校実践の専任教員になる前に都立の定時制高校などで非常勤講師をしていた経験です。昨年から短期大学部長として短大改革にも取り組んでいます。この学校の良さは厳しいけれど温かい親身な指導。短大で学ぶ学生たちが「実践に来て良かった」と思ってもらえるようにしたい、と考えています。



OGの向田邦子さんが急逝した1981年の学園祭「常磐祭」では、ゆかりの人々を招き追悼の会を企画した（左が高瀬さん）



男女共同参画推進担当理事
人間社会学部長
広井多鶴子教授

高瀬先生は、実践出身の日本文学研究者。実践の大学院を修了して研究者として活躍されている女性は、高瀬先生をはじめ全国にたくさんいます。実践が大学院修士課程を設置したのは1966年、博士課程は1969年のことでした。当時、博士課程があった女子大学は、全国でわずか4校のみ。国文学では最初の博士課程でした。実践は全国の女子大学の先鞭をつけて、女性研究者の育成に努めてきたのです。